

(提案9)

公開シンポジウム「ジェネラリストと人文学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 哲学委員会 古典精神と未来社会分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成27年11月7日（土）13:00～17:00
5. 場 所：東京大学文学部 315 番教室
（東京大学本郷キャンパス法文1号館3階）
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

グローバル人材とは本来ジェネラリストであり、グローバル教育とはジェネラリスト養成を目的とすべきものである。この観点から、本シンポジウムでは大学における古典教育の位置づけやあり方、及び、例えば国家公務員試験に哲学を科目として課すという可能性について議論する。

8. 次 第：

13:00 開会挨拶

小島 毅*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

13:10 趣旨説明及び問題提起

葛西 康德*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

13:50 報告1：国家公務員試験の現状と今後について

大下 政司（人事院人材局長）

14:30 報告2：古典教育に求められる内容について

田作 朋雄（PWC Japan シニアアドバイザー）

15:10-15:30 （休 憩）

15:30 コメント

納富 信留*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学文学部教授）

16:00 総合討論

(司会)

小島 毅*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

16:50 閉会の辞

岡田真美子*（日本学術会議第一部会員、兵庫県立大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 10)

公開シンポジウム「移動する若者／移動しない若者—実態と問題を掘り下げる—」(仮題)の開催について

1. 主 催：日本学術会議 社会学委員会 社会変動と若者問題分科会
2. 共 催：独立行政法人労働政策研究・研修機構
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 27 年 11 月 14 日（土）13：00～17：00
5. 場 所：都市センターホテルコスモスホール
（千代田区平河町 2－4－1）
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

これまでの若者の就業に関する研究は大都市を対象としたものが多く、地方の労働市場や地域間移動をめぐる近年の状況について、包括的かつ詳細な検討は限られてきた。しかし、社会変容が若者にもたらす様々な影響を明らかにし、また近年の「地方創生」の議論を実のあるものとするには、地方の若者の働き方や地域移動の実態を正確に把握した上で政策が展開される必要がある。

本シンポジウムでは、地域に残る若者、地域移動する若者という比較軸を用いて、若者の地域移動の全体状況の整理及び地方の若者の実態を、ジェンダー視点を採り入れつつ多角的に検討する。

8. 次 第：

13：00 趣旨説明

本田 由紀*（日本学術会議第一部会員、東京大学教育学研究科教授）

13：10 報告 1 「若者の地域移動に関するデータ分析」(仮題)

堀 有喜衣*（日本学術会議連携会員、独立行政法人労働政策研究・研修機構研究員）

13：35 報告 2 「日本の人口構成と若年女性の地域移動」(仮題)

林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部部長）

14：00 報告 3 「5 年間追跡調査から見た若者と地域」(仮題)

片山 悠樹（愛知教育大学学校教育講座講師）

14：25 報告4「地域に残る若者の実態」（仮題）

轡田 竜蔵（吉備国際大学社会学部准教授）

14：50－15：10 （ 休憩 ）

15：10 コメント1

木本喜美子*（日本学術会議連携会員、一橋大学社会学研究科特任教授）

15：20 コメント2

吉川 徹*（日本学術会議連携会員、大阪大学人間科学研究科教授）

15：30 総合討論

（司会）

本田 由紀*（日本学術会議第一部会員、東京大学教育学研究科教授）

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 1 1)

公開シンポジウム「国連仙台防災枠組みと看護の貢献」開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、日本看護系学会協議会
2. 後 援：日本看護科学学会、第 35 回日本看護科学学会学術集会
3. 日 時：平成 27 年 12 月 6 日（日）16：30～18：00
4. 場所：広島国際会議場 第 2 会場 ヒマワリ
(広島県広島市中区中島町 1 番 5 号)
5. 分科会の開催：なし
6. 開催趣旨：

10 年前の平成 17 年に神戸で開催された第 2 回国連防災世界会議では、防災・災害対応のために兵庫行動枠組みが採択されたところであるが、本年平成 27 年 3 月に、仙台において第 3 回国連防災世界会議が開催され、仙台防災枠組みが採択されたところ。そして、今回の仙台防災枠組みでは、人々の暮らしと命・健康を守るための活動と、より良い復興のための活動の必要性が認識されたものとなっている。災害発生現場はもちろん、その後の中・長期的な時間経過の中で、看護職は人々に寄り添い、その生活と健康維持・回復に向けて様々なケアを提供してきており、今後 15 年間の防災や災害時/後の対応の指針となる仙台防災枠組みの内容を知り、より具体的な活動を模索したいと考え、本シンポジウムを企画するものである。本シンポジウムを災害看護領域の方々のみに関わらず、日本の看護界が一体となり、多発する災害に対して備え、対応し、人々の健康を守るために、必要な活動、必要な教育、必要な研究について、共に考える場としたい。

7. 次第：

16:30 開会あいさつ

片田 範子*（日本学術会議第二部会員、兵庫県立大学看護学部・看護学
研究科長・教授）

16:35 講演 「国連仙台防災枠組みと日本の方向性」

齋藤 馨（日本学術会議特任連携会員、内閣府政策統括官（防災担当）
付参事官（普及啓発・連携担当））

17:35 報告 「日本看護系学会協議会における災害への取り組み」
田中美恵子*（日本学術会議連携会員、東京女子医科大学看護学部教授）

17:50 討議 「国連仙台防災枠組みと看護の貢献」
司会) 南 裕子*（日本学術会議連携会員、高知県立大学学長）
山本あい子（兵庫県立大学大学院看護学研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 1 2)

公開シンポジウム「環境変動と生物」の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会環境科学分科会、国立研究開発法人国立環境研究所、公益社団法人大気環境学会植物分科会
2. 共 催：公益社団法人大気環境学会関東支部植物影響部会
3. 日 時：平成27年12月11日（金） 13：00～18：00
4. 場 所： 国立研究開発法人国立環境研究所地球温暖化研究棟交流会議室
（茨城県つくば市小野川16-2）
5. 分科会の開催： 開催予定なし

6. 開催趣旨：

地球温暖化やそれに伴って生じる気候変動、オゾン等の大気汚染物質や農薬等の土壌・水汚染物質濃度の増加は生物に様々な影響を及ぼし、将来の生態系や農・漁業生産に対する大きな脅威となっている。特に植物は、大気から二酸化炭素や各種汚染物質を吸収し、環境変動を緩和する一方で、成層圏オゾンを破壊する塩化メチルを大気中に放出するなどにより環境変動を助長する側面もあり、環境との間に複雑な相互作用が成り立っている。今後、特に経済発展の著しいアジア地域において、環境変動の急激な悪化が危惧されることから、その生物への影響やメカニズムを解明することは、今後の対策を考える上で必要不可欠である。また、そのためには、分子、細胞、個体から生態系といった様々なレベルでの研究が行われる必要があるが、これまでに得られている知見は各レベルにおいてまだ断片的なものに過ぎず、総合的に理解できるようにはなっていない。

本シンポジウムでは、環境変動と生物の相互作用やそのメカニズムについての分子から生態系に及ぶ様々なレベルの研究の現状について紹介していただくとともに、今後の研究の方向性などについて議論する。

7. 次 第：

司会：青野 光子*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター主任研究員）

13:00 開会挨拶

住 明正（国立研究開発法人国立環境研究所理事長）（予定）

講演：

13:05 越境大気汚染の植物への影響

伊豆田 猛 (東京農工大学農学部教授)

13:45 植物のオゾン障害・耐性のしくみ

佐治 光 (国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター室長)

14:25 熱帯植物から放出される揮発性有機化合物の観測

斉藤 拓也 (国立研究開発法人国立環境研究所環境計測研究センター主任研究員)

<休憩>

司会：三輪 誠 (埼玉県環境科学国際センター主任研究員) (予定)

15:10 植物の光利用可能性に対する温室効果ガス CO₂ 増加の影響

富松 元 (日本森林技術協会森林保全グループ専門調査員)

15:50 環境変動のマングローブ生態系への影響

井上 智美 (国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター主任研究員)

16:30 沿岸域の環境構造、生物生息環境の保全と修復

矢持 進 (大阪市立大学工学研究科都市系専攻教授)

17:10 植物の環境応答イメージングとフェノミクス研究への展開—細胞から群落へ、2次元から3次元へ—

大政 謙次* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

17:50 閉会挨拶

若松 伸司 (大気環境学会長) (予定)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「健康長寿と再生医療」の開催について

1. 主 催 : 日本学術会議 歯学委員会
2. 共 催 : 日本歯科医学会、日本歯学系学会協議会
3. 日 時 : 平成 27 年 12 月 13 日 (日) 13:00~17:00
4. 場 所 : 歯科医師会館大会議室
(〒102-8241 東京都千代田区九段北 4 丁目 1 番 20 号)
5. 分科会の開催 : 開催予定

6. 開催趣旨 :

日本の老年人口割合は、平成 19 年 (2007 年) に 21.5% となって超高齢社会に入った。現在の老年人口割合は 25% を超え、実に 4 人に 1 人が高齢者という時代に入っている。15 歳~64 歳の生産年齢人口と 65 歳以上の老年人口の比率は平成 37 年 (2025 年) には 2.5:1、平成 67 年 (2055 年) には 1.5:1 となると予想されている。すなわち、日本社会は、将来史上空前の大介護社会、多死化社会となり、人口減を伴った超高齢社会が一層加速することが確実である。

このような人口構造の変化は社会に様々な影響をもたらすことは必至であるが、患者人口の高齢化により肥大化する社会保障費財源の確保がさらに困難なものとなり、国民にのしかかる医療費負担は今後ますます重くなることが予想される。

この日本社会の人口構造の変化による医療財政の逼迫に対しては、高齢者が健康で長生きすることが有効な手立てである。また、世界に類を見ない超高齢社会において人々が幸福に暮らしていくためには、高齢者が元気である必要があることに疑いはない。このような社会状況の中で、現在は男性で 9.13 年、女性で 12.68 年もある平均寿命と健康寿命の差を縮めて「健康長寿社会」を実現するのに有効な歯科的方策を確立することは、歯科界に課せられた重要な使命であると思われる。

現安倍政権は、健康・医療産業の競争力強化をアベノミクスの第 3 の矢である成長戦略の中核に位置付けている。その中で、人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) 研究に 10 年間で 1,100 億円の予算投入が決定し、再生医療の実用化・産業化が推進され、再生医療に関する政策を世界に伍して行けるよう体制が整えられつつある。

歯科においても歯・歯周組織の再生を中心に再生医療の実現に向けた研究が盛んに行われている。再生医療には自己増殖能と多分化能を有する細胞である幹細胞が利用される。幹細胞は種々の組織から得られるが、歯髄 (抜去智歯) や歯周組織の採取が安全かつ容易であり、有用な細胞資源となることが期待されている。すでにヒト歯肉細胞由来 iPS 細胞も作製され、臨床応用への準備が整えられつつある。歯科における再生医療はまたして「健康長寿社会」の実現に資することはできるであろうか。今回、日本学術会議歯学委員会主催、ならびに日本歯学系学会協議会、日本歯科医学会の共催により再生医療の最前線にいる研究者を集めてシンポジウム

を開催し、再生医療をもって健康長寿の延伸に資することは可能であるかについてともに考える機会を設け、口腔を通じて国民の健康長寿に貢献する道筋を探ることとした。

7. 次第：

1) 開会挨拶

13:00～13:10

古谷野 潔*（日本学術会議第二部会員、九州大学大学院歯学研究院教授）

住友 雅人（日本歯科医学会会長）

宮崎 隆*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会理事長、昭和大学歯学部長・歯科理工学教室教授）

2) シンポジウム

座長：

和泉 雄一（日本学術会議連携会員、日本歯科医学会常任理事、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生体支持組織学講座歯周病学分野教授）

山口 朗*（日本学術会議第二部会員、東京歯科大学口腔科学研究センター教授）

13：10～13：55 健康長寿と再生医療

鳥山 佳則（厚生労働省医政局歯科保健課課長）

13：55～14：40 次世代再生医療としての歯科再生と口腔再生医療

辻 孝（国立研究開発法人理化学研究所多細胞システム形成研究センター器官誘導研究チーム チームリーダー）

14：50～15：35 歯の延命化による健康長寿を目指した歯髄・象牙質再生治療法の現状と展望

中島美砂子（国立長寿医療研究センター研究所幹細胞再生医療研究部部長）

15：35～16：20 歯周組織再生療法の将来展望

－ サイトカイン療法と幹細胞移植療法の未来 －

村上 伸也*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座教授）

16：20～17：00 全体討論

3) 閉会挨拶

井上 孝（日本歯科医学会総務理事、東京歯科大学臨床検査病理学講座教授）

矢谷 博文*（日本学術会議連携会員、日本歯科医学会理事、日本歯学系学会協議会常任理事、大阪大学大学院歯学研究科クラウンブリッジ補綴学分野教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

(提案 1 4)

公開シンポジウム「電気電子工学分野の更なる活性化に向けてー学界と産業界それぞれの役割と連携の在り方ー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 電気電子工学委員会
2. 後 援：電子情報通信学会、電気学会、映像情報メディア学会、計測自動制御学会、情報処理学会（予定）
3. 日 時：平成 27 年 12 月 22 日（火）13：00～17：15
4. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室
5. 委員会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：

電気電子工学分野の活性化について、講演とパネル討論の二部構成を取りながら、多面的に意見を深める目的で開催する。前半は3つの講演からなり、問題提起と将来展望を共有化する。電気電子工学の学術研究の在り方、産業界の状況と研究開発の活性化のポイント、学術研究と産業界との役割と連携の在り方など、様々な切り口からの話題で講演いただく。後半は、各学会の産業界との連携、国際化、人材育成、英文出版の活性化、会員数の増加、関連産業の発展に向けた取組み等を紹介頂き、学会での共通点と違う点を議論して、学会の連携や学術会議の役割についてパネル討論を行う。

7. 次 第：

【プログラム】

- 13：00 はじめに
保立 和夫*（日本学術会議第三部会員、東京大学理事・副学長）
- 13：15 電気電子工学のこれからの方向性 「大学における研究と役割」
榎 裕之*（日本学術会議連携会員、豊田工業大学学長）
- 13：45 「産業界の状況と研究開発の活性化のポイント」
（依頼中）
- 14：15 「学術研究と産業界との連携の在り方」
渡部 俊也（東京大学政策ビジョン研究センター教授）
- 14:45-15:00 （ 休憩 ）
- 15：00 パネル討論「電気電子工学関連学協会での取り組み状況と問題点」

<司会>

大西 公平*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学理工学部教授）

<パネリスト>

- ・電子情報通信学会会長

小柴 正則（日本学術会議連携会員、北海道大学特任教授）

- ・電気学会前会長

日高 邦彦*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究
科教授）

- ・映像情報メディア学会会長

土井美和子*（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通
信研究機構監事）

- ・計測自動制御学会会長 本多 敏（慶應義塾大学理工学部教授）

- ・情報処理学会前会長

喜連川 優*（日本学術会議第三部会員、情報・システム研究機構国
立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授）

- ・IEEE

青山 友紀*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・
メディア研究科特別招聘教授）

17：10 総括

吉田 進*（日本学術会議第三部会員、京都大学名誉教授）

17：15 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

(提案 15)

公開シンポジウム「生薬の安定供給と開発に向けた薬用資源科学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、化学・物理系薬学分科会
2. 共 催：日本薬学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 1 月 8 日（金）13:00～17:10
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

長寿健康社会の構築のためには、天然医薬品や食薬の供給源となる生薬・薬用植物の開発と安定供給が不可欠であり、また、漢方医薬は既に医療の中で大きな位置を占めており、医療現場からも極めて高い関心を集めているところ。過去30年の新規医薬品の6割の開発に天然資源が何らかの貢献をしており、薬学の源流でもある天然医薬資源の研究と開発には大きな期待が寄せられている。

このような期待の中で、生薬資源植物に関するゲノム関連科学は急速に進んでおり、例えば、複数の薬用植物のトランスクリプトームデータの公開、甘草のドラフトゲノムの国内研究機関での解読など、ゲノム科学を基盤とした大きな展開が国内外で始まっており、また、国内の薬用植物の整備とデータベース化、国際的な生薬資源の開発と標準化などの基盤的なプラットフォーム整備、さらには生薬資源のケミカルバイオロジーや伝統薬物の作用からの医療薬学研究などにユニークな展開が見られる。

しかし、生薬供給の大部分を占める中国からの輸出規制などにより優良素材の国内での安定供給の重要性が増しており、また、生物資源の多様性と利益配分に関する国際的な名古屋議定書の問題もあり、生薬資源科学に対して各国から大きな注目が集まっていることを踏まえ、医薬品行政と実際の流通からの生薬の問題も議論したい。

また、この関連テーマは平成25～26年の日本学術会議の第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン2014「学術大型研究計画」に申請し、薬学領域から2件選抜されたヒアリング案件の1つに取り上げられました。さらに現在、次期のマスタープラン2017申請に向けて準備を進めているところ。

本シンポジウムは、薬学委員会の生物系薬学分科会及び化学・物理系薬学分科会の合同シンポジウムとして開催し、薬用植物資源にフォーカスしながら、その多面的な問題について第一線の研究者による議論を深め、将来の展望を探りたいと考えるものである。

8. 次 第：

13:00～13:10 開会挨拶

堅田 利明*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授）

太田 茂（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授、日本薬学会会頭）

座長：野口 博司（静岡県立大学薬学部大学院薬学研究院教授）

13:10～13:40 「現状の概観と薬用資源植物のゲノム機能科学」

齊藤 和季*（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院薬学研究院教授、国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究センター副センター長）

13:40～14:10 「薬用植物資源の作出、栽培、維持とデータベース」

川原 信夫（国立研究開発法人医薬基盤研究所薬用植物資源研究センターセンター長）

座長：伊藤美千穂（日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科准教授）

14:20～14:50 「国際的な生薬資源の調査・開発と品質の標準化」

小松かつ子（富山大学和漢医薬学総合研究所教授）

14:50～15:20 「生薬資源のケミカルバイオロジー」

阿部 郁朗（東京大学大学院薬学系研究科教授、日本薬学会生薬天然物部会部会長）

座長：水上 元（高知県立牧野植物園園長、日本生薬学会会長）

15:30～16:00 「伝統薬物の有用性評価と医療薬学的諸問題」

牧野 利明（名古屋市立大学大学院薬学研究科教授）

16:00～16:30 「レギュラトリーサイエンスから見た生薬と薬用資源の課題」

合田 幸広（国立医薬品食品衛生研究所薬品部部長）

16:30～17:00 「原料生薬の品質・安定確保に向けた流通の現状と課題」

平手 豪巳（株式会社ツムラ生薬本部副本部長・生薬業務部長）

17:00～17:10 閉会挨拶

佐治 英郎*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科長・教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 16)

公開シンポジウム「我が国の計測分析プラットフォームをどのように構築すべきか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会分析化学分科会、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォーム戦略の構築」、日本分析化学会、日本分析機器工業会
2. 共 催：国立研究開発法人産業技術総合研究所 COMS-NANO、国立研究開発法人科学技術振興機構（調整中）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 1 月 20 日（水）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

計測分析技術は、我が国が得意とするものづくりへの展開を通して、イノベーション創出の基盤を支えてきている。そのための技術を提供する計測分析機器産業界、これを利用する素材・部材産業界は、研究開発の転換点を迎えている。高い国際競争力を維持・向上するため、基盤共有化・オープン化の必要性が高まっていることを受け、我が国の計測分析プラットフォームをどのように構築すべきか、産業界、アカデミア各方面の現状と期待、構築戦略について幅広く議論・討論する。
8. 次 第：

13:00～13:25 はじめに「産官学による計測分析プラットフォームに向けて」
一村 信吾*（日本学術会議連携会員、名古屋大学イノベーション戦略
室長・教授・総長補佐）

13:25～13:45 計測分析プラットフォーム構築の必要性と期待—アカデミア

および学会の立場から—
鈴木 孝治* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)

13:45～14:20 計測分析プラットフォーム構築の必要性と期待—産業界の立場から—

栗原権右衛門 (分析機器工業会会長、日本電子株式会社代表取締役社長)

14:20～14:55 計測分析プラットフォーム構築の必要性と期待—政策立案の立場から—

佐藤 了平 (文部科学省先端計測分析技術・システム開発委員会委員、大阪大学特任教授)

14:55～15:15 休憩

15:15～15:30 独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会中間報告 1
「ソフトウェアプラットフォームの構築に向けて」

安永 卓生 (九州工業大学生命情報工学科教授、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会共通基盤(ソフトウェア)WG 主査)

15:30～15:45 独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会中間報告 2
「ハードウェアプラットフォームの構築に向けて」

藤田 大介 (国立研究開発法人物質材料研究機構先端的共通技術部門部門長、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会共通基盤(ハードウェア)WG 主査)

15:45～16:00 独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会中間報告 3
「ソリューションプラットフォームの構築に向けて」

柳内 克明 (TDK テクニカルセンター製品解析ソリューション Unit リーダー、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会 ソリューション WG 主査)

16:00～16:15 独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会中間報告 4
「標準化の視点で考えるプラットフォーム構築」

永富 隆清 (株式会社旭化成基盤技術研究所主幹研究員、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会標準化 WG 主査代理)

16:15～16:55 総合討論

16:55～17:00 おわりに「計測分析プラットフォームの重要性」
尾嶋 正治*（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）